

斜角探傷法について

探触子

板厚に応じて原則として次の探触子を用いる。

- $t \leq 40$: 周波数5MHz、公称屈折角70度もしくは65度
- 70度はA 2型系STBもしくはA3型系STBの $\Phi 4 \times 4\text{mm}$ の平底穴をH線に合うようにゲインを調整する。
- 65度はA 2型系STBもしくはA3型系STBの $\Phi 4 \times 4\text{mm}$ の平底穴をM線に合うようにゲインを調整する。

- $40 < t \leq 75$: 周波数5MHz、公称屈折角70度と公称屈折角45度併用

- 45度はA 2型系STBもしくはA3型系STBの $\Phi 4 \times 4\text{mm}$ の平底穴をU線に合うようにゲインを調整する。

- $75 < t$: 周波数2MHz、公称屈折角65度と公称屈折角45度併用

- 65度は対比試験片 (ARB) の $\Phi 3.2\text{mm}$ の横穴をU線に合うようにゲインを調整する。
- 45度は対比試験片 (ARB) の $\Phi 3.2\text{mm}$ の横穴をU線に合うようにゲインを調整する。

- 斜角一探触子法で公称屈折角 70° と 45° または 65° と 45° を併用し、同一欠陥を両探触子で検出した場合は、公称屈折角 70° または 65° の探傷結果を採用して欠陥の評価を行う。